



令和7年9月2日
第3号
秦野市立西中学校
秦野市柳町2-5-1

今の私（たち）にできることは…

～ 広島平和記念式典での「平和への誓い」をうけて ～

今夏も茹だるような暑さが続いた夏休み。予想最高気温が30℃そこそこの天気予報をみて「少し涼しくなりそうだ」と期待する自分の感覚を疑ってしまう…そんな夏休みを終え、いよいよ2学期がスタートしました。

始業式では、今年80回目の節目となる原爆の日を迎えた広島市の平和記念式典で、広島市の小学6年生が読み上げた『平和への誓い』について、子どもたちに話をしました。

以下、始業式で子どもたちに話した内容です。

毎年2学期の始業式では、8月に行われた広島の平和祈念式典で力強く語りかける、広島市の小学6年生による『平和への誓い』を紹介しています。今回もその動画を紹介します。テレビで視たり聴いたりした人もいるかも知れませんが、ぜひ自分のこととして考えてみてください。

平和への誓い（動画）

（中略）

「被爆から80年が経つ今、本当は辛くて、思い出したくない記憶を伝えてくださる被爆者の方々から、直接話を聞く機会は少なくなっています。

どんなに時が流れても、あの悲劇を風化させず、記録として被爆者の声を次の世代へ語り継いでいく使命が、私たちにはあります。

世界では、今もどこかで戦争が起きています。

大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。

その事実を自分のこととして考え、平和について関心をもつこと。

多様性を認め、相手のことを理解しようとする事。

一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはずで。

周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、いずれ世界の平和につながるのではないのでしょうか。

One voice.

たとえ一つの声でも、学んだ事実思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはずで。

大人だけでなく、こどもである私たちも平和のために行動することができます。

あの日の出来事を、ヒロシマの歴史を、二度と繰り返さないために、私たちが、被爆者の方々の思いを語り継ぎ、一人一人の声を紡ぎながら、平和を創り上げていきます。」

「大人だけでなく、こどもである私たちも平和のために行動することができます。」動画で言っていました。「平和」と聞くと、随分と大きなことのように感じてしまう人もいるかもしれませんが、「相手のことを理解しようとする事」や「相手の考えに寄り添うこと」、「思いやりの心で話し合うこと」など、ほんの少しの行動が、いずれ世界の平和につながると言っています。

今日から、一人一人が意識し、少しずつ行動に移すところからスタートしてみましょう。自分にできることから始めてほしいと願っています。

ぜひ、ご家庭でも話題にしてみてください。

また、一昨年夏休みの『親子ひろしま訪問団』に参加した西中生が、広島市から『被爆アオギリ二世』の苗木を譲り受け、南門脇の花壇に植樹しました。この『被爆アオギリ二世』は、広島に投下された原子爆弾によって被爆したアオギリが焦土の中で再び青々と芽吹き、多くの人々に生きる希望を与えました。植樹からしばらくの『苗木』は、枯れてしまうのではないかと心配しま



したが、植樹から2年の月日がたち、今では人の身長を超えるほどの背丈まで育ち、大きな葉を何枚もたくわえるたくましい『木』に成長しつつあります。

皆さんもこの『被爆アオギリ二世』を目にした時は、『平和』について少し考えてみてください。

